

氏名	堤 昭 人		
学位の種類	学 術 博 士		
学位授与番号	博 甲 第 924 号		
学位授与の日付	平成 3年 3月 28日		
学位授与の要件	自然科学研究科物質科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	岡山県南西部における上部古生界の地質構造発達史		
論文審査委員	教授 光野千春	教授 本間弘次	教授 濡木輝一
	教授 小合龍夫	教授 山口恒夫	

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

岡山県南西部，井原市周辺の古生界の堆積史，変形史の詳細な検討を行ない，この地域が3つの地帯に区分されることを明らかにした。各地帯を構成する地層は各々独自の堆積史を有する。本研究ではこれらの地層を新たに定義し，北側より佐屋層，下鴨層，および稗原層と命名した。佐屋層，および下鴨層の分布する地帯はその変形史が南側の稗原層の分布する地帯とは異なり，それは中国帯の変形史に対比される。この北側の地帯と南側の地帯の境界は変成度の観点から導かれる境界と一致する。

本論ではこの境界は西南日本内帯に識別されている構造地帯のうち中国帯と舞鶴帯との境界の連続であると判断した。調査地域の中国帯は，その岩相が中国帯の岩石に類似の性質を有する佐屋層，および舞鶴帯の舞鶴層群の一部に対比される下鴨層より構成される。一方本地域の舞鶴帯は舞鶴層群の下部層，中部層の一部に対比可能な稗原層上部部層および中国帯のあるいは上月地域の岩石と類似の岩相を示す稗原務下部部層から構成される。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

岡山県南西部井原市周辺の古生界は中国帯に属するものか，舞鶴帯に属するものか，多くの研究者によって論議されてきたが，堤昭人は1985年から1990にかけて，この地域に分布する古生界を，放散虫化石による生層序学的な面，スレート劈開・チリメンジワ劈開等の野外調査資料による微構造解折的な面，堆積岩構造鉱物の成分分析的な面から，この地域の堆積史・変形史の詳細な検討を行い，この地域の古生界は3つの地帯に区分されることを明らかにした。

堤昭人は3つの地帯区分を北から佐屋層，下鴨層及び稗原層に区分し，それぞれの堆積

史，変形史を研究し，佐屋層の岩層は中国帯に広く分布する地層に対比され，下鴨層の岩層は舞鶴層の下部・中部層の一部に対比されるとした。また，稗原層の下部層は中国帯に分布する地層の一部に対比され，上部層は舞鶴層群の下部層に対比されるとした。さらにこの地域に分布する佐屋層と，南側に分布する下鴨層・稗原層との境界は，変成度の観点から導かれる境界と一致するとした。

堤昭人のこのような結論は，各層の堆積岩類（塩基性及び酸性火山岩類も含めて）の堆積構造・変形要素（堆積面，スレート劈開，チリメンジワ劈開等）の詳細な検討から出されたものであり，この境界は西日本内帯で識別されている構造地帯のうち，中国帯と舞鶴帯との境界の連続であると結論した。

これによって，従来から論議されてきたこの地域の地帯区分が解決されたものと判断され，平成3年1月21日の論文発表会及び，その後の予備審査会の結果，堤昭人の論文を学術博士の学位請求論文に値するものと認めた。